

学校名（ 宍粟市立一宮北小学校 ）

実施日：12月8日（2校時）	
領 域：教科 保健体育「体の発育と健康」	
取組名：性について悩みをもつ人がいることを知る	
対 象：4年生	実施場所：教室
ア ねらい ・ 体は、思春期になると次第に大人の体に近づくこと、また、異性への感心が芽生えることを理解させる。 ・ 性自認や性的指向について学び、性について悩みをもつ人がいることを理解させる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 ・ 前時の学習「女性と男性には、どんな違いがあったか」を振り返る。 ・ 教科書を読み、疑問に思ったことを話し合い、課題をつかむ。 ・ 課題：『性についてのなやみ』には、どのようなことがあるのだろうか』について考える。 ・ ゲストティーチャーの話を聞く。 ・ 悩みについて考え、話し合う。 ・ 本時の学習をまとめる。	
ウ 連携先：宍粟市人権推進課、宍粟市立一宮北中学校、家庭、地域	
エ 連携にむけての取組 ・ 宍粟市人権推進課の方から4年保健体育の教科書に性の多様化についての内容が掲載されていると紹介され、授業の内容について検討した。授業当日は、ゲストティーチャーとして性の多様化について話をしていただき、児童の理解を深めた。 ・ 宍粟市立一宮北中学校とは、相互に授業を公開し参観した。 ・ 家庭や地域には、授業の内容や児童の発言を学級通信やHPで知らせた。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行う上での工夫点 ・ 9年間（小学校1年から中学校3年）を通した性の多様性の授業カリキュラムを作成するため、小中全職員で夏季研修を実施し、指導案を検討した。 ・ 学年に応じて計画的に性の多様性の授業を進めている。 ・ 授業の様子を動画で撮影し、小中職員がいつでも視聴できるようしている。 ・ 教職員や宍粟市人権推進課の方が授業を参観し、意見交換し合っている。 ・ 各教科・各領域を通して、伝え合う活動を取り入れた授業実践を行うことを小中全職員で意思統一している。ペア学習やグループ学習などを活用し、相手の考えや意見を受け止めてから自分の考えを伝えるように指導している。相手意識をもたせた上で、伝えたいことをまとめさせ、コミュニケーション能力を育んでいる。	
カ 評価の方法 ・ 授業中の発言 ・ ワークシート、感想	
キ 成果 児童は心の性と体の性がちがう人がいて、悩みをもっていることを理解できた。話し合って考えを深めた結果、「性について正しく知らないことが差別につながる」と、そして、「その差別が、自分らしく生きることの妨げになっている」という考えが出た。性の多様性について正しく知るための学びを通して、他の人権課題の解消にもつながる意見が出たことは大きな収穫である。	
ク 課題 4年生での学習をもとにさらに正しい知識を身につけ、5・6年生での「気づき、行動する」ステップへとつなげていきたい。	